

学習内容報告書 フォーマット

学校名	岩手県 矢巾町立不動小学校
授業者	高橋 悦子 吉岡 裕晃

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

地球温暖化を防ごう隊 ～壁新聞で多くの人にひろめよう～

1-2. 学年

6年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間・国語

1-4. 単元の概要

- 10月 壁新聞による研究の発信・・・オリエンテーション  
壁新聞作り講習会  
講師 前岩手県NIE会長 川村 久子 氏  
海洋教育講演会・・・・・・・・・・ケンタロ・オノ氏による講演会  
講演会を聴いて・・・・・・・・・・振り返り
- 11月～2月  
壁新聞作り 大学生との共同作業  
壁新聞掲示と発表

1-5. 単元設定の理由・ねらい

5年生で行った研究を壁新聞の形にまとめることで、発表することにより、改めて2年間の学習のまとめを行う。自分たちが行った研究を振り返ることにより、まとめながら新たな気づきや学びを得ることを狙いたい。

ケンタロ・オノ氏の講演会を聞くことにより、自分たちの研究を通して学んだことを行動かしていくことをねらいとしたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 1 具体的な活動や体験を通して、情報を収集し、その情報を整理することができるようにする。
- 2 学習を通して、問題を自分との関わりで捉え、生活と関連づけて考え表現することができるようにする。
- 3 自分のできることを考え、提案し行動することができるようにする。
- 4 大学生と交流することで、学校内から広がったコミュニケーション能力の育成

1-7. 単元の展開（全 時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	オリエンテーション	学習の目的・学習方法・学習計画
2	海洋教育講演会 「国がなくなる！ キリバス共和国と地球温暖化」 講師 ケンタロ・オノ 氏	ケンタロ・オノ氏を招いての講演会  評価：講演を聴いての感想を作成
2	壁新聞づくり講習会 講師 前岩手県NIE会長 川村 久子 氏	川村 久子氏を招いての講演会 矢巾中学校の1年生が作成した壁新聞を教材に児童が表現したいことについての支援を行う。 評価：意欲的に壁新聞に興味を持つことができたか
1	岩手大学学生によるSDG's 特別授業	岩手大学の学生による授業 岩手大学教育学部 4年 学校教育教員養成課程 新山 和郁 小学生とSDG's
13	壁新聞づくり 指導者 高橋 悦子 共同参加者 岩手大学学生	壁新聞づくり 新聞の形式野学習 見出しの付け方 記事の作成 資料の整理
1	壁新聞発表会	発表会を行うことで、学んだことを行動化に結びつけることができるか。

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

・自分たちが研究した内容について、壁新聞にまとめ発表する意義を理解する。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
導入 1 新聞について学ぼう	○新聞の良さについて学ぶ いろいろな情報に、触れることができること。 (インターネットは、自分に必要な情報を主に得ることができるが、偏る不安があること)
展開 2 新聞の作成のしかた	○新聞の題名づくり ○紙面の構成について ○見出しの重要性について ○紙面作りの約束事について
3 題名を考える 紙面構成を考える	○自分たちの研究や伝えたいことを表す題名を考える
4 紙面構成を考える	○グループごとに紙面構成を考える グループワーク
まとめ 5 今後の活動の計画と役割分担	○新聞作成のための計画と役割分担を行う。

### 3. 今回の活動の自己評価

当初の計画では、研究の発展学習に取り組む予定であったが、新型コロナウイルスのために、本校の教育課程が影響を受けたために計画変更を行った。

前岩手県N I E会長の川村久子氏の指導を受け、壁新聞で研究の発信を行うことにしたが、壁新聞づくりは、各教科の横断的な学習が必要であり、大変有効は取り組みであると感じた。

また、岩手大学の協力を得て、リモートで学生に授業や取り組みに参加してもらい、学生と一緒に学習を進めたことが児童の意欲喚起につながった。

リモート技術の活用を、教職員が習得したこと、また、児童が違和感なくリモートの学習を受け入れることができたことが成果であった。

### 4. 今後の課題

学校の年間計画にどのように位置づけていくか。また、助成がない場合、どのように予算措置を講じるかが課題である。

リモートにより、講演会、岩手大学との交流はできたが、対面と同等とは行かなかった。しかし、スケジュール調整のしやすさ、旅費等費用の縮小など大きなメリットがあることも感じた。

対面とリモートのバランスを考えて行きたい。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

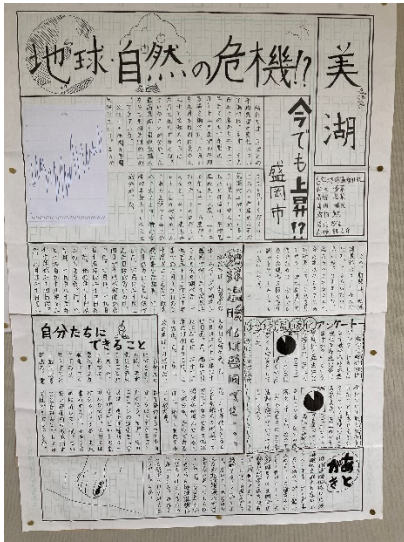
特記事項はありません。



前岩手県N I E会長川村久子氏による授業



岩手大学学生によるSDG's授業



壁新聞

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。